

新会長就任のご挨拶

山形大学 多賀谷 英幸

6月の総会におきまして、千葉大学の中込秀樹前会長の後を受け、会長に就任いたしました山形大学の多賀谷です。ひとことご挨拶をさせていただきます。

本研究会は、平成10年（1998年）に誕生し、今年で15年目を迎えております。これまでに9回の国内討論会と6回の国際会議を開催してきておりますが、今年の国内討論会は9月に米沢市で開催されており、来年は10月にインドでの国際会議開催が準備進行中です。このような本研究会の活動は、



国内外のプラスチックおよび関連する材料の化学的手法を取り入れた循環再生と有効利用の発展に広く貢献し、今後とも多様な情報交流の機会を通し、未活用資源の有効利用の促進とその発展に貢献しようと考えております。

さて米沢と言えば、平成21年に放映された大河ドラマ「天地人」の直江兼続ブームで大賑わいでしたが、平成25年放映の大河ドラマ「八重の桜」でも主人公新島八重ゆかりの地と言う事で、話題になっています。東京からは新幹線で2時間ちょっとの距離にある観光地ですが、実は日本でも有数の豪雪地帯となります。

雪の大変さは住んで見なければ分かりません。しかし、上杉鷹山の推奨した雪菜は、その名の通り雪中で育つ伝統野菜ですし、雪おろしツアーや雪灯籠祭りなど、克雪から利雪と言う視点も、大変さを知っているからこそそのアイデアとなります。

大学設置不許可の騒動は耳に新しいところですが、少子化の中で増え続ける大学と入学定員を充たさない大学の増加、そして、卒業しても就職できない若者の現状などにもスポットが当てられています。親、学生、大学、社会の関わりが確実に変化している中で、決して小さくない大学の役割がクローズアップされていることは当然のこととなります。

地方大学の工学部生は、情報過多の中で就職活動にも多大な辛苦を味わっています。卒業・修了生に求められる能力として先ず第一にコミュニケーション能力があげられますが、それは確かに社会人基礎力には違いありません。しかし高等教育が目指している社会人基礎力の第一は、やはりそれぞれの専門分野における基礎・専門知識、そして課題発見能力などの汎用的技能である事は間違いありません。主従を取り違えることなく、大学が地道に役割を果たすことに改めて思いを込めたいと思いません。

21世紀は石油価格の高騰に始まり「Shale Gale」がもたらす不確実性の中で新たなプラットフォームを模索しています。本研究会の目指す資源有効活用の促進と発展こそ、その糸口の一つと信じております。

是非今後とも会員の皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。